萬葉集略解

四下

内閣文庫
和書
類 一八二八
號 三二
冊 一
函 一〇〇
架 一八

内閣文庫
番號 和 18208
冊數 32 (8)
函號 200 141

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

大夫之思和備乍遍多嘆久嘆乎不負物可聞

まさらをのおもひわびつつなげきをとおはぬもののも

なげきまさるかはいつもとかなげきをぬがむすべをしらにわれは

大伴坂上郎女歌一首

心者忘日無久雖念人之事社繁君爾阿禮

こころはわするひなくおもへどひとのことこそしげきなるきみにあれ

右注云或本歌頭有如此者之類者不載之

このたぐひのものは事ハ言へ

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

不相見而氣長久成奴比日者叉何好去哉言借吾妹

あひみむとてけなのくなるあこのごろいふよるくやいぶのわぎも

けもくはよるよるくなるとよくとよけくといふよるくは平安ちの

やしまの人集中歌くよりまよ同じ、幸仲言云ハ在の後の、奇明紀好在とち

てさきくらんぐまやとよるありとつ、言傳ハ傳云るてんハいづのるく

大伴坂上郎女歌一首

夏葛之不絶使乃不通有者言下有如念鶴鳴

なつくずのたえずつかひのよどみあれば言下ありしつるのも

宣ぶる夏ハ葛の絶えずくとそのなるんといつ、あるるてづく物伺く

絶えずまるー使のこのごろをいぶかりあやうしなるくく言ハ来、

ーまハ脚歌

右坂上郎女者佐保大納言卿女也駿河麻呂此者の誤り高市

大卿之孫也兩卿兄弟之家女孫姑姪之族是以題歌送

万解四下 一

答相問起居 佐保大納言ハ安麻呂卿、大卿ハ高市麻呂卿

大伴宿禰三依離復相歡歌一首 歡々本歎とあり、目録及文庫

なよよるくく及つ

吾妹兒者常世國爾住家良思昔見從寒若益爾家利

わぎもこハとこよのくにに住けらしむかしみしよりわかくましにけり

引ぎもこハ大伴坂上郎女とさそ、わるこハなるべくるく

大伴坂上郎女歌二首

久堅乃天露霜置二家里宅有人毛待意奴盤

ひさかたのあめのつゆしもおきるとなるいへなるひとまちこひぬらむ

つゆしもハ秋ふく物なれとこの家ハ在の妻とてなるべー

らんぬなるくハ後ハ在の妻とてなるべー、元ハち宰ふてのこの

玉主爾珠者授而勝且毛枕與吾者率二將宿

たまかつらたえにしをとめ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

白うべきこと、寒ハさんのうるふよりて見れば生てをんと洲べ一ハ信ゐ行
考べしよりてなりあとをみりていくで出ずるこ笠のかりの沖一生ノ
きんぜ生ニうんかうとの者

大伴坂上郎女歌六首

吾耳曽君爾者戀流吾背子之戀云事波言乃名具左曽
われのみぞきみにこふるわがせこがこゝろをしこのなぐさぞ
こゝろハ生てつつのかくちぐさハんを知もちろ物ゐ思ふ恋ろんを慰
ゆんとてぞとりつく

不念常曰手師物乎翼酢色之変安寸吾意可聞
おもハずといひてしものをたねぞいろのうつろひやすきわがこゝろかも

右ハ天武紀十四年秋七月浄位以上並朱華と者ようあり朱華
こゝろハ波ゆ花ゝ稱ようを生ハ唐様花を家より信詞ようく、

まゝ〻ゆゝる波ゆ花をいきあるの白ケ〻ゆゝうろんもしとあるゆ花を十
一ゆもゝ花の武人と信ゝ庭梅ゝゆゝ花ゆゝ花ゆゝ花

なをとわをひとゞさくなるいでわぎみひとのなゝでゝきゝこれゆゑん
ちんぢゝこれとゝくいでハそこきゝこゝにやうるかれとゝ
ゝ
ゝ

大伴宿禰像見歌一首　後紀天平宝字八年十月正六位上大伴宿禰形見授従五位下之由

石上零十方雨二將関哉妹似相武登言義之鬼尾

いそのかみとをかたあめにつるがせんといひてしそのをに

いそのかみ　枕詞　ふるあめ　いとのこと　あやふさ　いつるかせんといひてしそのをに

義の義の義なるべきいつる

安倍朝臣蟲麻呂歌一首　後紀天平九年九月正七位上阿部朝臣蟲麻呂授外従五位下之由

向座而雖見不飽吾妹子二立離往六田付不知毛

むかをりてみれどもあかぬわぎもこにたちはなれゆくたづきしらずも

たづきとは大伴坂上郎女歌に

大伴坂上郎女歌二首

不相見者幾久毛不有國幾許吾者戀乍裳荒鹿

あひみねばいくばくもあらぬくにいくばくわれはこひつつもあるか

戀戀而相有物乎月四有者夜波隱良武須臾羽蟻待

こひこひてあひたるものをつきしあれば　よはこもるらむしばしはありまて

　　　

朝爾日爾色付山乃白雲之可思過君爾不有國

あさにけにいろづくやまの白雲のおもひすぐべききみにあらなくに

右歌山の秋の景色をいひかけたるなり

とやうにとくべきこゝにかゝるあるぬしなるべしとやうにとくべきなり

なるべし

春日王歌一首 元志貴皇子之子母曰多紀皇女也

足引之山橋乃色丹出而語言繼而相事毛將有

あしびきのやまたちばなのいろにでゝかたらひつぎてあふこともあらん

式大嘗會供物注文に山橋子とあるをやぶのこととおもはるるなり

そのゝゝ名によりゝゝいろんの字のゝゝかたらひつぎて落とをくいひをんと

つゝとゝきこのれど拾遺にかたらひつぎて宮もりのるゝ八佐白るかけそ

言ハ者の語ゝゝかたらひつぎてなんとらつゝ

湯原王歌一首

月讀之光二来益足疾乃山乎隔而不遠國

つきよみのひかりにきますあしびきのやまをへだてゝとをからなくに

月よみハ月表持のことゝ紀ニ月ちる月夜見ちるどちりこいやう

て月のゝまちつゝ山をへだてゝとをからなくに

和歌一首 元不審作者

月讀之光者清雖照有惑情不堪念

つきよみのひかりハきよけれどまどゝるたゝへどとゝやゝ

月のゝ人ハまどゝとんのまどゝいとるけあくじ

安倍朝臣蟲麻呂歌一首

倭文手纏數二毛不有壽持奈何幾許吾意渡

[illegible]

[illegible]

身二字の[illegible]

[illegible]

大伴坂上郎女歌二首

真十鏡磨師心乎縱者後雨雖云驗將在八方

[illegible]

[illegible]

真玉付彼此無手言盡五十戸常相而後社悔二破有跡五十戸

[illegible]

[illegible]

中臣女郎贈大伴宿禰家持歌五首

娘子部四咲澤二生流花勝見都毛不知戀裳摺可聞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海底奥乎深目手吾念有君二波将相年者経十方

わこのそこいやきさとおのあてわがもへるきみをあらんとはるぬとも

[illegible]

春日山朝居雲乃鬱不知人爾毛意物香聞

かすがやまあさゐるくものおほ〳〵しくしらぬひとにもこころをるかも

一云のるハなほ〳〵しくしらぬ人にもなびくのかなしさ

直相而見而者耳社霊剋命向吾恋止眼

たゞあひてみてばのちこそたまきはるいのちをむかへこひやまなん

直ちあひてあらばこそたまきはる物思命にかへてしのはめ

いつがもと云ことを例ある社ハ物とわもよりくこゝのうゑ社のうへと

はれ〳〵や

不欲常云者將強哉吾背菅根之念亂而恋管毋將有

いなといへどもしひてやわがせなをのねのおもひみだれてこひつゝもあらん

わがせこがいなといへどしひてやもとのねのおもひみだれていんやそひとりもしたへん

[illegible]

大伴宿禰家持與交遊別歌三首　目録にこの別の上の字なし

蓋毛人之中言聞可毛幾許待君之不来益

けだものゝなかのことにきけるかもいくばくたゝまをきみがきまさぬ

けだものゝなかのことにきけるかもいくばくたゝまをきみがきまさぬ

中々爾絶年云者如此許氣緒爾四而吾將恋八方

なかなにたえんとしいはゞかくばかりいきのをにしてわがこひやも

なかなにたえんとしいはゞかくばかりいきのをにしてわがこひやも

中〳〵いはゞたえんとしいはゞかくばかりいきのをにしてわがこひやも

[illegible]

相ヲ将ニ誤

相念人爾有莫國懃情盡而意流吾羲
あひおもひ人にあるなくにねんごろにこころつくしてこそるるこころも
相とも将ふるは誤れり、一わつ
大伴坂上郎女歌七首
謂言之恐國曽紅之色莫出曽念死友
いつたへのかしこきくにぞくれなゐのいろはなのでそわがしたもとも
かしこきはおもふこころきこえ、人このくにぞくれなゐ色はなのでそ
ものいひはかしこけれども人のあひだにいきづくき世をとゝもに
いたづらに出いなん神のゝ
今者吾波將死與吾背生十方吾二可縁跡言跡云莫苦荷
いまはわれはしなんよわがせいけるとゝわれはよるべしといふなくふ
りていはくふはまぐ、云思とゝはくり例なり、こゝも然なくなり

なくとゝはくべしいまはわれはしなんよわがせいけるとゝわれはよるべ
きもれんやといふなくふ又銀の子といへるとゝはくべしいまはわれはしな
ん何のこゝろぞいふ
人事繁哉君乎二鞘之家乎隔而意乍將座
ひとごとしげけるかきみをふたさやのいへをへだてゝこゝろをらむ
二さやハ二ふりかたなをいふ、ひとのこゝろをいふ、人の
さがなくしげくしられてきぬぎぬとなるべしとなり
いふてきやハ隔の字の我国にかなをかくべしといふ考べ
此者千歳八往嘗過與吾哉然念欲見鴨
このごろはちとせやゆきこしすぎぬるわれやもこゝをおもふまくほしも
おもてはいへしるとゝはくるとゝはもるとゝはわがのこゝろをいふ
かくかなをふるとゝはくれるとゝはかれば、のがとゝはくるとゝ、年十一年十やよみて

いかるがやいかるがの

愛常吾念情速河之雖塞々友猶哉將崩

うつくしとわがおもふこころ　なかれやこのせきとめてとせくとなほやくづれむ

あしがりとせきるせけども　せきあへずくだるこころとたぎつあ

つかはしもよしもなし

青山乎横敦雲之灼然吾共咲為而人二所知名

あをやまをよこぎるくもの　いちじるくわれとまをてひとにしられな

まこしらくもの　まこしらくもの　まこしらくもの　まこしらくもの

きぬ〳〵　ゆかしきかな　〳〵　〳〵　〳〵　〳〵

海山毛隔莫國奈何鴨目言乎谷裳幾許乏寸

うみやまもへだてなくにかもめことをたにもいくばくとすく

目ぐ〳〵　〳〵　〳〵　〳〵　〳〵　〳〵　言の葉の　〳〵　〳〵

さくらの目　〳〵　〳〵　〳〵　〳〵　〳〵

大伴宿禰三依悲別歌一首

照日乎闇爾見成而哭涙衣沾津干人無二

てるひをやみにみなして　なくなみだころもぬらしつほすひとなしに

衣ほすなどもはゝ女のそぎるれば　年十二ひさまあんこうとも

ようやくいつぐよう

大伴宿禰家持贈娘子歌二首

百礒城之大宮人者雖多有情爾乗而所念妹

ももしきのおほみやびとはおほけれどこころのうちにおもほゆるいも

年十一月日さしうるぢの人にたゆけどわづまもちはこひとのこと

〳〵　〳〵　〳〵　〳〵　〳〵　〳〵

得羽重無妹二毛有鴨如此許人情乎今盡念者

[illegible]

大伴宿禰千室歌一首　未詳

如此耳憑哉將度秋津野爾多奈引雲能過跡者無二

[illegible]

廣河女王歌二首　後紀天平宝字七年正月無位廣河王授従五位下[illegible]不破内親王次で歌[illegible]

憶草呼力車二七車積而憶良苦吾心柄

[illegible]

憶者今葉不有常吾羽念乎何處憶其附見繫有

[illegible]

石川朝臣廣成歌一首　後紀天平宝字二年八月従六位上石川朝臣廣成授従五位下[illegible]

家人爾窓過目八方川津鳴泉之里爾年之歴去者
いへびとにこひすぎめやもかそづたふ〳〵いづみのさとふる〳〵のくぬれば
志〳〵んとそやもとる雑きへ泉の里八山林お歩ち泉川のあ〳〵とそべ〳〵
久迩の都へ遷されし度なれのあつまとおき〳〵よるなるん

大伴宿禰像見歌三首

吾聞爾繫莫言刈薦之亂而念君之直香曽
わゐきくよかけてないひそかりごもの みだれておもふきみがただかぞ
かりごもの枕何、なごのハまべてくへのころもを敷て寝るよりは
宮ぢろ集中正香しるるもなるたごの浦ゆ刈ぎとしまさうし刈るより
ふそ〳〵なれアいろ、まきのハまのあ〳〵あんるこ時のるとい者
ゆ〳〵ごうとハ思ひざるよ吳ぢるるだ〳〵こ〳〵われて中ゆ此
このゝとハ忘れてもつとろよ思ひざるよ〳〵かるごくへのいとゆて

もはぐゝきこ〳〵ちもれバ思ひざるよ〳〵とろうてい幼〳〵なれ〳〵
春日野爾朝居雲之敷布二吾者意益月二日二異二
かすゝがのあさゐるくもの志き〳〵にわれハいまそつきよひまけて
みやまの中〳〵の志きられるとき〳〵影〳〵ならひて〳〵
一瀬二波千遍障良比逝水之後毛將相今爾不有十方
ひとせゝるなみちこびさ〳〵ひゆく水ののちもあひてんいまなりども
さ〳〵ひハさもるとと延ゝ水ハ流あ〳〵ゝ塞ゆるとんゝ

大伴宿禰家持到娘子之門作歌一首

如此為而哉猶八將退不迩道之間乎煩參来而
かゝりてやなほやまのゝ道ちあ〳〵ものあひ〳〵となづ〳〵まるきて
かゝ遠きろとなづ〳〵まゝ〳〵ゆるとて つゝゆるゝ〳〵ゝ
集中まるとまんとまるんとハまるきてとれいづべ

河内百枝娘子贈大伴宿禰家持歌二首

波都波都爾人乎相見而何將有何日二箇又外二將見

はつはつにひとをあひみていかなるかいつれのひまにまたまたあはむ

そもそもは半七日小端なれども日ごとに又いつの時にかあはむ

夜干玉之其夜乃月夜至于今日吾者不忘無間苦思念者

ぬばたまのそのよのつくよにいまにまでわれはわすれず間なくしおもへば

その夜には神にまさしき夢をいでて

巫部麻蘇娘子歌二首　巫部宿禰の姓なり

吾背子乎相見之其日至于今日吾衣手者乾時毛奈志

わがせこにあひみしそのひにいまにまでわがころもではひるときもなし

その日よりこのかた涙にぬれて

捞繩之永命乎欲苦波不絶而人乎欲見社

たくなはのながきいのちをほりくはくたえずてひとをみまほしみこそ

たくなはの極限命もながくあらせをうんとねがふこそ

あれとらるる

大伴宿禰家持贈童女歌一首

葉根蔓今為妹乎夢見而情肉二愛度鴨

はねかづらいまはせをいもとゆめにみてこころのにくにあはるかも

はねかづらは女の髪の形なるものなれば、髪結ばるる約束にて、

半七夜彼彼後今なる妹をとうわのみにてもあるかな今せをゆめ

べしいかに新しきものなれば、はるばるとせをしく人乎来新年ふるめ

いまのわかみとなりぬ何かをきほどもなんのこころいつる

童女来報歌一首

葉根蔓今為妹者無四手何妹其幾許意多類

はねのづいまたるいやはなのそもとづれのいもかこころこしたるか

なるづいもとかもかの[illegible]

それがもづむるまたいとつるをこころはづいづれの[illegible]

[illegible]

[illegible]

粟田娘子贈大伴宿禰家持歌二首

思遣為便乃不知者片埦之底曽吾者意成爾家類

[illegible]

云未里俗云毛比 小盂也、まる或る土椀サロ水椀サロ[illegible]八合[illegible]

蓋[illegible]

[illegible]

[illegible]

復毛将相因毛有奴可白細之我衣手二齋留目六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

豐前國娘子大宅女歌一首 大宅ハ氏なるべし

夕闇者路多豆多頭四待月而行吾背子其間雨毋将見

[illegible]

[illegible]

安都扇娘子歌一首　安都扇氏女郎の

三空去月之光二直一目相三師人之夢西所見

みそらゆくつきのひかりにあひみしの　いもにみゆらん

丹波大娘子歌三首　日没る大の下女のこと所又ちなみ丹波氏

なしに

鴨鳥之遊此池爾木葉落而浮心吾不念國

かもとりのあそぶこのいけにこのはおちてうきのごとかぜふかず

おもはうらでとりんをのしられはうきてるかなしのごとく

味酒呼三輪之祝我忌杉手觸之罪歟君二遇難寸

うまさけをみわのはふりがいみすぎてふれつみのきみにあひがたき

味酒と枕詞　三輪の社の社人　忌杉　神木なる杉　罪歟

行くうひうくてちよまをがてもとく

垣穂成人辭聞而吾背子之情多由多比不合須者

かきほなすひとごときこてわがせこがこころゆたひあはぬるかもの

垣穂のもとに隔つる人のうとうとしきことをいふ　ゆたひのほはもぐるあるいはあと　いふ須く言もはかもちもい

もびきうくなるるもてはの泊いこづえといつる

大伴宿禰家持贈娘子歌七首

情爾者思渡跡縁乎無三外耳爲而嘆曽吾爲

こころよはおもひわたれどよりをなみとのみしてなげきぞわがする

千鳥鳴佐保乃河門之清瀬乎馬打和多思何時將通

ちどりなくさほのかはぐのきよせをうまうちわたしいつかかよはむ

大和の佐保なる娘子のもとに人を遣はすべし

獨ヲ狩ニ誤惑ハ感ノ誤

夜晝云別不知吾戀情蓋夢所見寸八

よるひるといふわきまへもなくこころのはげしきをいふなり

つきハわりちく

都禮毛無將有人乎獨念爾吾念者惑毛安流香

つれなくあるらんひとをかくもしたはるこの

ゆへにあるらんハそれよりつくもあらん人をもとめ獨をもつ者ニ

なるべしこれハまことにあるこうハりなるべし

字ヒュ感ハ憂也と見

不念爾妹之咲儛乎夢見而心中二燎管曽呼留

わすれぬるいもがえまいをゆめにみてこころのうちにもえつゝをる

おもひのうるさきこと

丈夫跡念流吾乎如此許三禮二見津禮片思男責

情ヲ於ヲ誤

まことをとなのつるわれをかくばかりみつれをもいとせんこ

れをハ知らずとなげくなり

也の語の紀ヨ贏とみつれと訓ヨ、男やつれの意なり、責ハせんの訓よ

ばるるなり、寒をさんの訓ヨ用ゆるなり

村肝之情摧而如此許余意良苦乎不知香安類良武

むらきもの心くだけてかくばかりあわれをこゝろとなやむらん

むらきもの物ヨ、情をとゝ於ヨ俗ニ知

獻　天皇歌一首　作の歌なるまの志ゝれ共、或伝ヨ坂上郎女の分

ゝ世る説ありて、天皇ニそゝ奉りしなり、ゝ説見庭ての分ハ、

こゝも作保の山里なるべし、説ヨ、ゝ兄ゆれバかりて志ゝ居るゝ此

ゝ女宮年ゝ志ゝ奉りしなるべ、ゝ毛ハ二ゝ毎の内命婦

の歌なり

足引乃山二四居者風流無三吾為類和射矢害目賜名
あしびきのやまにをれどみやびなるわがとをとめらにつなな
げ山ぞしびしるなをれるまくさるべし風流とみやびと

沙弥尼二人へ

大伴宿禰家持歌一首

如是許意乍不有者石木二毛成益物乎物不思四手
かくばかりこひつつあらずばいしきもなるましものをものもいはずて

女の心に既よいへり情ふかきを石木にもなぞらへたるなり

大伴坂上郎女從跡見庄贈賜留宅女子大孃歌一首并
短歌

常呼二跡吾行莫國小金門爾物悲良爾念有之
とこよふとわがゆのなくにをかなどはにものがなしらにおもへるし

吾兒乃刀自緒野干玉之夜晝跡不言念二思吾身者痩奴
わがこのとじをぬばたまのよるひるといはずおもひわがみはやせぬ

嘆丹師袖左倍沾奴如是許本名四戀者古郷爾
なげくにしそでさへぬれぬかくばかりもなしこひばふるさとに

此月期呂毛有勝益士
このつきごろもあがるまさむ

歌世ちくはいはゆる國をいふ呼は與の字の誤なり、とかもどは扶かもどなり

安康紀哥よおほまくをまる屋もくねの訶那杜加礙、と杜を社なる誤 こゝは宝九

金つ子人の本主てはいかゝしらぬ物なれどあひなる宝

十四ちくこゝは五人の、物ぬしらるゝとは別なる吋のさまゝ、刀自は老女

のこゝろあるべし、おもはるゝといふ、孤もなし、物のまゝなるべくみのしは

物象、かゝる故もいつゝ、こひぞいふるなるべしと思ふ、あるべきまゝに

左馬寮坂上郎女ハ宿奈麻呂の妻なり、坂上里に居て、
こもりくの大嬢と、ものいふ事ありて、こゝに詠人の志を述べきこと
なり、外に居て、ほゝの笑ましきさまを、ものいふ人の志を、
思ふ大嬢とかくよめる如くなるべし、月久しくいこうふる事を云へ

反歌

朝髪之念亂而如是許名姉之意曽夢爾所見家留

あさかみの思ひみだれてかくばかりなねがこゝろに
見えけるかも

結髪の恋、なねのなハあづまの国、ねハ姉のこと、如ハ物なれど、ちハうゆ
まひいるの意、こゝろ、これぞハこゝろ、ぞでのバと思ふ、宮ぢゝ、ぞのなこゝろ、ぞねの
こゝろ、ぞでんのべしゝ、ぞれ、ぞでなるべ、ぞ、ぞ、ぞ

萱草吾下紐爾著有跡鬼乃志許草事二思安利家理
わすれぐさ　　　

わがせなをかちなのいほるふしもぬとも　きみがなるてばをみてなけ
[illegible]

又大伴宿禰家持和歌三首

今時有四名之惜雲吾者無妹丹因者千遍立十方

いましはしなのをしくもわれはなしいもふよりてはちたびたちも

空蟬乃代也毛二行何為跡鹿妹爾不相而吾獨將宿

うつせみのよやもふるゆくなにとかいもあはずてひとりねむ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吾念如此而不有者玉二毛我真毛妹之手二所纏牟

わがおもひしかくてあらずたまにもがまことしいもがてをまきもん

[illegible]

同坂上大嬢贈家持歌一首

春日山霞多奈引情具久照月夜爾獨鴨念

かすがやまかすみたなびきこころぐくてるつくよにひとりかもねむ

[illegible]

又家持和坂上大嬢歌一首

月夜爾波門爾出立夕占問足卜乎曽為之行乎欲焉
つくよなのかどにいでたちゆうけとひあらうとぞせしゆのまくをほす

あるいはこたえうらなうあるいはとちくあるのいつて、言もちゐず乎ハ
其の侭なるゆのまくほすみなんとなり

同大嬢贈家持歌二首

云云人者雖云若狭道乃後瀬山之後毛将念君
かふのくまひとはいふともわかそちののちせのやまののちもあらんきみ

念八會の侭なるに、後世のこハ後といふなり料の〻

世間之苦物爾有家良久意二不勝而可死念者
よのなかのくるしきものにありけらくこころえずして死ぬべきまでに

言もつものハよのなかのくるしきものにあらくハるを

延りなり

又家持和坂上大嬢歌二首

後湍山後毛将相常念社可死物乎至今日毛生有
のちせやまのちもあらんとおもふこそ死ぬべきものを今日までもいきあり

物ハ人ごとの心ハ人ごとにあるべきなり

とりつよかれもしば

事耳乎後手相跡慰吾乎令憑而不相可聞
ことのみをのちもあハんとなぐさめわれをたのませて逢ずあるべきか

言ものゝ後ハ手を合てとなぐさめるとなり

とゝ、空もゝ法白不相妹可聞
とゝ、空もゝ法白不相妹可聞

さてもとなり、手ハ毛の誤

更大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌十五首

夢之相者苦有家里覺而搔探友手二毛不所觸者

いえのあひだくるかなとなわおどろきてかきさぐれどもてもふれねば
なほまもなくとなくなく契沖を遊仙窟の中時睡則夢見十娘驚覺攢之
急遽空手とりつるとなりてよりあるべき事五山上恨永遊仙窟を引き
くくとなれば、どくく叫聞よ渡りまれもくらえるわくいてと

一重耳妹之将結帯乎尚三重可結吾身者成

ひとくのみにもあむもそびむ打びをもくらみへむもぶべくわのみはなのぬ
第十三二つるき之をくれば、つねの事をこまるなべくわのみ衣ぬ
もよあもそもし打仙窟より日し衣寛朝く帯緩とらるるくう

吾憑者千引乃石乎七許頸二将繫母神之諸伏

わのこひはちびきのいしをなばのかくびよかくもかみのまるふ
神代紀以千人所引磐石之これる引ん、ちびきのいはとなつ
まく牧くきといふ、沖の諸伏ハ頸ごくく沖の伏まて

ごえ待つのをといつのかくんもハかけくくんほどとりつをこもハ物ゆ、
ゆ引のえをあまくく頭よ伏ゆくくんめくくゆきを恋ハまれ、沖の
くれくのつかよをこがくきとりよこの事二むうづくこえなくぬあよハちハ
やぶる沖でつくくふなくぬ事でよといくく沖の伏ちて之を男
をとぬるくよ翌くいてうちくさくく伏るくんと翁ハいくくれきされば
伏ゆ極なくく伏ゆまくべきん、行考べー

暮去者屋戸開設而吾将待夢爾相見二将来云比登乎

ゆつくくらぶやどあけまけくわれまくんぶめよあひみふこむとよいとを
あくよたくハあけおくけてく、これを遊仙窟ニ今宵莫閉戸夢裏向
渠邊くくくとよあくを

朝夕二将見時左倍也吾妹之雖見如不見由憑四家武

あさよひよみんときさくくやわぎもこがみとくくぬごくなくくひけむ

[illegible]

生有代爾吾者未見事絶而如是恨怜縫流裏者

[illegible]

吾妹兒之形見乃服下著而直相左右者吾将脱八方

わぎもこがかゝみのこゝろときてたゞあまでいわれぬのめやも

憑死六其毛同曽奈何為二人目他言辞痛吾将為

[illegible]

夢二谷所見者社有如此詩不所見有者憑而死跡香

[illegible]

念絶和備西物尾中之爾奈何辛苦相見始兼

[illegible]

相見而者幾日毛不經乎幾許久毛久流比爾久流必所念鴨

あひみてはいくかもへぬとこゝばくもくるひまるるひおもやゆるこのも

[illegible]

如是許面影耳所念者何如将為人目繁而

かくだのるとおもものげのみおもかゝえばいのふのもせんひとあーばこて

人々ぐくてハやのるよるでくくあくぐで、ゑくく人めゆよあうぐが石乳
のくうてばくくハいうゆせんとりて
相見者、須臾憑者、奈木六、叉昌豊、雖念彌、憑益来
あひみてハ為ましてひいなぎんのくおゆでいよくこひまさりけり
なぎんくくゆ和んやくくんちぐくさひとりけり
夜之穂杼呂、吾出而来者、吾妹子之、念有四九四、面影二三
湯
よのほどろわがくくれば わぎもこがおもへらくくおもかげよみゆ
夜の穂どろハ宝も流焼ぐくうもちくと物とりてまぐゆのぐらきうちく、
ほどくくゆのくゆ日ゆくくあくゆ夜のゆ夜ゆくくよゆ夜けばくくく

[illegible]

白雲之多奈引山之高き二吾念妹乎將見因毛我母

[illegible]

何時爾加妹乎牟具良布能穢屋戸爾入將座

[illegible]

[illegible]

右田村大孃坂上大孃并是右大辨大伴宿奈麻呂卿之女也卿居田村里号曰田村大孃但妹坂上大孃者母居坂上里仍曰坂上大孃于時嬢妹諮問以歌贈答

大伴坂上郎女從竹田庄贈賜女子大孃歌二首　神武紀皇師立誥之處是謂猛田式大和国十市郡竹田神社あり、大孃ハ[illegible]

打渡竹田之原爾鳴鶴之間無時無吾戀良久波

[illegible]

[illegible]

早河之瀧爾居鳥之縁乎奈彌念而有師吾兒羽裳柯怜
[illegible]

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首 女郎名曰小鹿也

神左夫跡不欲者不有八也多八如是為而後二佐夫之家
牟可聞

かみさびていなとはあらねどやしおかがてのちぶさ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉緒乎淡緒二撰而結有者在手後二毛不相在目八方八
たまのをあわをふよりてむすばれば[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大伴宿禰家持和歌一首

百年爾老舌出而與余年友吾者不厭戀者益友

在久通京思留寧樂宅坂上大嬢大伴宿禰家持作歌一首

一隅山重成物乎月夜好見門爾出立妹可將待

今二ノ下有字ヲ脱

藤原郎女聞之即和歌首

坂上大嬢と称する女は久迩の京の宮女なるべし大伴の家と

路遠不来常波知有物可良爾然曽將待君之目乎保利

みちとおくこずとは知るものからかくまつらんきみのめをほり

ねうらふはねなどふく志つてい

大伴宿禰家持更贈大嬢歌二首

都路乎遠哉妹之比来者得飼飯而雖宿夢爾不所見来

みやこぢをとをみやいもがこのごろはけひてぬれどいめにみえこぬ

都は久迩の京をいふ　みやは遠きをいふ　神武紀祈とうけひ　河口誓文

行ごとの古語　年三年十二月ひのあよ　飼飯とは飯に飼ふ筒の法

なるべしと宣長いへり　行てぬれど　旅寝の遠きなどを妹が居る

[illegible]

今所知久通乃京爾妹二不相久成行而早見奈

いもはもらもて　これのみもこよひもふあはびいきーくもかつわのゆさてこやの[illegible]

[illegible]

大伴宿禰家持報贈紀女郎歌一首

久堅之雨之落日乎直獨山邊爾居者欝有来

ひさかたのあめのふるひをたくひとやまべにをれはいぶせかりけり

大伴宿禰家持從久通京贈坂上大嬢歌五首

人眼多見不相耳曽情左倍妹乎忘而吾念莫国

ひとめおほみあはすのみぞこころさへいもをわすれてわがもはなくに

[illegible]

万解四下　サハ

偽毛似付而曽為流打布嵩真吾妹兒吾爾戀目八

いつはりもにつけてぞするうつしくもまことわがきもとわれをこひめや

[illegible]

らんとも　[illegible]

[illegible]

夢爾谷將所見常吾者保杼毛友不相志思諾不所見武

いめにだにみえんとわれはほれどもあひしもねばらしをみえざらん

[illegible]

保と[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]不相志思の志ハ助辭なるとかく
[illegible]の[illegible]なくかく[illegible]志ハ衍文なく、[illegible]
[illegible]ハなるべし[illegible]所見の下有の字あり、[illegible]ハ
邪の偽なるべし[illegible]あんの代化は祝と保佐把とあれば、
又志ハ者の偽なるべし不相思者[illegible]
事不問木尚味狭藍諸弟等之練乃村戸二所詠来
[illegible]
百千遍戀跡云友諸弟等之練乃言羽志吾波不信
[illegible]
[illegible]
[illegible]

万解四下　廿九

考花

大伴宿禰家持贈紀女郎歌一首

鶏鳴故郷後念友何如嘗妹爾相縁毛無寸

紀女郎報贈家持歌一首

事出之者誰言爾有鹿小山田之苗代水乃中與杵爾四手

大伴宿禰家持更贈紀女郎歌五首

吾妹子之屋戸乃笹平見爾往者蓋徒門将返却可聞

わぎもこのやどのまのきさみよゆのぞけばかどもるかへりなんの

さゝ笹のまをいまゝぬとハ次のあるてこゝにられす

打妙爾前垣乃酢堅欲見将行常云哉君乎見爾許曽

うつたへにまがきのすがゝほゆゝしくいへやきみをみまくほりせん

うつたへハ枕詞ゆゝしくいとやゆゝしくいとやゆゝしくこゝにゝ笹

のさゝやうにして行よハあらぬ実ハ君をみまくほりせんと

板蓋之黒木乃屋根者山近之明日取而持将参来

いたぶきのくろきのやねハやまちかしあすもとりてもちてまゐこん

遷都のはるゝハ故なく遷るべしまゐハ後のなまるとゝ伝

日本紀後紀神亀元年十一月太政官奏言云云其板屋草舎中古

遺制難宮易破云云板やねゝ宮もちを取の上

和ヲ知二誤

代の宮作るこの板やきをとるべしとなり

黒樹取草毛刈作仕日利勤和氣登将誉十方不在

くろきとりくさもかりつくるつかへにいそしきわけとほめんとあらず

一云仕登母

和とゝを知る誤まるよりて例さまり和氣ハ汝と云ふ心よりまくこゝろ

いそしハ紀ヨ勤のまと例ふ、後紀天平勝宝二年三月東人等賜勤

医姓とまくこゝ同書伊福志臣東人とまくこゝ、君ハ君が奴のごとく

つかへにそしまくこゝ

たゝこそハおよ例ふ例ふのまくこゝ

野干玉能昨夜者今還今夜左倍吾子還莫路之長手呼

ぬばたまのよべハかへりつこよひさへわれをこゝにまちのながてを

ぬばたまハまくこゝ同じ、なのてをまくこゝ

紀女郎裳物贈友歌一首 女郎名曰小鹿

風高邊者雖吹為妹袖左倍所沾而刈流玉藻烏

かぜたかへはあられふるいもをもとめてこぎ出へぬれてかれるたまもそ

遠ハ海なれども、烏ハ雪の譬なり、妹とハ女子ちとなるべし

大伴宿禰家持贈娘子歌三首

前年之先年從至今年戀跡太何毛妹爾相難

をとゝしのさきつとしよりことしまでこれとなぞもいもにあひがたき

をとゝしハ遠つ年なり、さきつとしハ去年なり、ことしハ今年なり

きのふけふあすとしらるゝ身なれとも遠つ日のことく思ひそ

打寄二波更毛不得言夢谷妹之手本乎纏宿常思見者

うつよせはさらにもいはしゆめたにいもの手もとをまきぬとしみは

昨夜ハ夢に逢んと思ひしに、夢にだにあらぬ事を思へばなり

吾屋戸之草上白久置露乃壽毋不有惜妹爾不相有者

わかやどのくさのへしらくおくつゆのいのちもをしけいもにあはすは

露の命ハ身の譬なり、みもとをしの字、惜と情と誤れり、元暦校本ハ惜

字也ハ壽ハ身の譬なり、みもとをしの字、身と壽と誤る例なり

大伴宿禰家持報贈藤原朝臣久須麻呂歌三首 後紀天平宝字三年授従五位下藤原恵美朝臣久須麻呂、後四位下、もろ

訓儒麻呂ともよめり

春之雨者彌布落爾梅花未咲久伊等若美可聞

はるのあめはいやしきふるにうめのはないまさくいとわかみかも

望之久、きまつるハ久しくなり、若の字、素の字の誤なるべし

如夢所念鴨愛八師君之使乃麻補久通者

いめのごとわもちゆるのもちきやしきみのつのひのまねくかよこだ

[illegible]

浦若見花咲難寸梅乎殖而人之事重三念曽吾爲類

[illegible]

又家持贈藤原朝臣久須麻呂歌二首

情八十一所念可聞春霞輕引時二事之通者

[illegible]

[illegible]

春風之聲爾四出名者有去而不有今友君之隨意

はるかぜのおとをのみしてなかりせばいまなほきみがこのまにまに

風の音をいたくなふきそなかりせばいまなほきみがこのまにまに

[illegible]

藤原朝臣久須麻呂来報歌二首

奥山之磐影爾生流菅根乃懃吾毛不相念有哉

おくやまのいはかげにおふるすがのねのねもころにあひもとぎれや

[illegible]

春雨乎待常二師有四吾屋戸之若木乃梅毛未含有

はるさめをまつとしあらしわがやどのわかきのうめもいまだふくめり

[illegible]

萬葉集卷第四

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan